

令和3年度市町村における「健康長寿に係るイチオシ事業」

市町村名

美里町

1 事業名(タイトル)

ICT&SIBの活用により長寿命化と扶助費の増加抑制を可能とする飛び地連携型大規模ヘルスケア事業

2 事業概要

美里町では、人口減及び加速する高齢化に伴う扶助費の増大という課題に対して、以前から町民の健康意識の向上及び生活習慣病の予防を目的として健康づくり事業を実施していたが、平成29年度から実施している「ミムリン健幸ポイント事業」については、平成31年1月1日現在で人口の約21%にあたる2,379人が参加しており、参加者に対してより効果的な事業展開・規模拡大が必要であった。

しかしながら、美里町のような小規模自治体では事業費の確保が厳しく、また、今後規模拡大をするにあたっては、参加者確保並びに医療費及び介護給付費抑制が期待できる事業の実施においてノウハウが不足し、担当各課との調整を含め職員の負担が増大となることが予想された。

そこで、令和元年度から地方創生推進交付金を活用しICTによる4市（山口県宇部市、岩手県遠野市、京都府八幡市、鹿児島県指宿市）と広域連携事業を行い、SIB（ソーシャルインパクトボンド）を活用した民間サービス事業者への成果報酬型契約、産官学連携による民間ノウハウの活用及び地域課題解決可能なICTヘルスケアサービスにより、5年後に医療費・介護給付費12億円の抑制を目的として健康づくり事業を実施している。

また、地方創生推進交付金終了後も継続した事業展開ができるようSIBモデルを構築する。

●実施事業

- ・ミムリン健幸ポイント事業（参加者数：3,005人）

国の実証実験により医療費抑制効果が認められたポイントロジックを活用。

新型コロナウイルス感染症による健康二次被害対策のため、魅力あるインセンティブを活用した歩数イベントを実施した。

- ・運動教室（参加者数：209人）

個人の体力や年齢にあった個別運動プログラムを活用。

3 参加者数

3,005 人

備考 令和3年12月1日現在

4 予算

52,964 千円

備考

5 事業効果等

1. ミムリン健幸ポイント事業における取組状況

(1)参加状況 参加者数 2,911人(令和3年4月1日)→3,005人(令和3年12月1日)

(2)令和2年度KPI達成状況

- ①参加者数 美里町：138%、5市町平均：112%
- ②運動不十分層割合 美里町：125%、5市町：138%
- ③継続率 美里町：93%、5市町平均：96%
- ④歩数の変化 美里町：58%、5市町平均：71%
- ⑤合計 美里町：100%、5市町平均：101%

(3)令和3年度の取組状況

①参加者確保に向けた取組

新規参加者を増やすため、マイナンバーカード手続の窓口に参加申込書を置き、参加の機会を増やした。また、参加者に対するインセンティブの送付時や県マイレージの景品配布時などに積極的な周知を実施している。

○月別参加者数

4月17人、5月18人、6月13人、7月16人、8月12人、9月13人、10月33人、11月39人、合計151人

○埼玉県コバトン健康マイレージへの参加

美里町では独自で「ミムリン健幸ポイント事業」を実施しているため、参加者はデータ連携により、「埼玉県コバトン健康マイレージ」へ参加している。

・令和3年第3回参加者 3,005人(人口の約28%)

②参加者の歩数増加に向けた取組(モチベーション維持向上)

医療費抑制に向けて、昨年度の結果から今年度は参加者の歩数増加に向けて取り組む必要があった。そのため、歩数増加に向けて継続的に以下の事業を実施した。

○行政区対抗歩数イベントインセンティブ配布(4月)

10月～12月目標歩数達成率が一位の地区の参加者に景品を配布した。

達成率 39.0%(105人) / 全体28.9%(2,841人)

○ヴァーチャルウォーキングラリー(10月～12月)

設定歩数を上回って歩いた参加者には、ポイントを付与予定。

○5市町対抗歩数イベント(令和4年1月～2月を予定)

連携5市町により、タニタヘルスリンクが提供するヴァーチャル歩数イベントを実施する予定。

2. 運動教室における取組状況

(1)参加対象者

運動制限のない20歳以上の方（※平成30年度からの継続参加者を含む）

(2)実施体制

新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、実施。本年度は5コースで実施

- ・1コース 37人 運動12回、測定2回
- ・2コース 62人 運動12回、測定2回
- ・3コース 39人 運動12回、測定2回
- ・4コース 33人 運動24回、測定2回
- ・5コース 38人 運動24回、測定2回

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、当初予定していた会場よりも大きい会場へ変更し、参加者のソーシャルディスタンスを確保して実施した。参加者には入場時、検温及びアルコールによる手指消毒を実施していただき、運動時以外はマスク着用を必須とした。

(3)運動教室欠席者の対応

参加者が自宅で運動ができるよう、運動をする意味、効果的な運動及び栄養に関する内容を掲載したチラシやDVDを配布した（チラシ配布3回、DVD配布1回）。

(4)個別運動プログラムシートの作成

3か月に1回実施する体力測定等の結果により個人の体力や年齢にあった個別運動プログラムを作成し、参加者が自宅でも運動をできるよう支援を行う。

また、ITを活用することにより少ない指導者でも多くの方を支援することができるのと同時に、一貫した指導をすることができる。

【体力測定項目】

握力、上体起こし、長座体前屈、開眼片足立ち、10m障害物歩行、2分間腿上げ

(5)個別指導体制の充実

参加者に対してはプログラムシートにおいて、体力年齢の把握や目標を設定しているが、随時個別指導ができるよう運動教室の指導者、保健師及び管理栄養士により個別指導が実施できる体制を整えている。

(6)栄養講座の実施

運動教室の実施と併せて、随時栄養講座を実施している。

6 その他(課題等)

(1)新たな課題及び新型コロナウイルス感染症の拡大による影響

①若年層の参加率

新規参加者数は242人と目標の200人を達成することができたが、若年層の割合が低かった。

若年層が健康を維持することが医療費抑制効果に大きく寄与するため、若年層が参加していただけるような仕掛けを検討する必要がある。

②参加者の歩数変化

連携5市町すべてにおいて新規参加者及び継続参加者における達成度が目標を下回ってしまった。美里町においては、連携5市町の中で一番達成度が低かった。

③新型コロナウイルス感染症の拡大による影響（健康二次被害）

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、外出自粛が長く続いたため、こどもから高齢者の全世代にかけて、影響が懸念された。

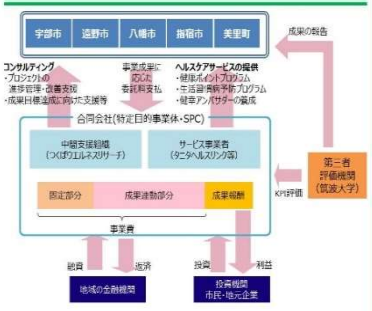
そのため、美里町では「コロナ前」と「現在(コロナ禍)」における生活や健康観、考え方の変化について、3,000人を対象としてアンケート調査を行った。

その結果として全体的に外出頻度がかなり減少しているとともに、家族以外との会話が減っている状況がわかった。

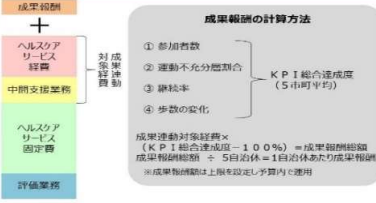
このような状況が続いた場合、運動不足や会話の減少とともに、心身の健康度が悪化してしまうことが予想される。

7 写真・グラフ等

本事業の実施体制



KPI達成度に応じた成果報酬



美里町におけるSIB事業に係る事業費

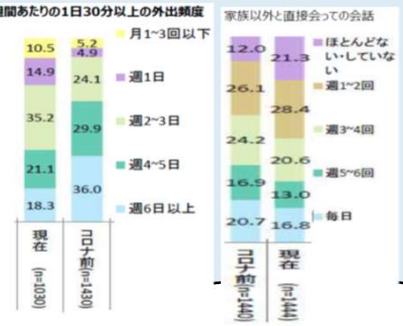


5年後の目標 (KGI)

プロジェクト開始5年目に2万人の参加
医療費・介護給付費抑制1.2億円を目指す

KPI設定: 5年後にKGI達成を可能とすることを念頭に各年度のKPIを設定

- 参加者数: 新規参加者と継続参加者のそれぞれが目標の90%を達成
- 運動不十分層割合: 新規参加者の60%以上が運動不十分層
- 継続率: 全参加者の85%以上が翌年度も継続
- 歩数の変化: 新規参加者の運動不十分層において1日の歩数歩数以上
または1,500歩以上増加者が60%以上
継続者の平均歩数において、5.5%の増加歩数以上



後期高齢者の疾病別医療費の上位5項目(男女別)

順位	疾病名	2019年度 (円)
1	高血圧性疾患	31,017
2	腎不全	13,867
3	脳梗死及び脳部の障害	11,448
4	糖尿病	11,239
5	気管炎及び詳細不明の認知症	10,151

